

# 「鎌倉市における小中一貫教育」 の推進について

～小・中学校の滑らかな接続を目指して～



6年生への生徒会活動説明会



中学生の指導による6年生陸上記録大会に向けての練習



## 「鎌倉市における小中一貫教育」の推進について

新しい環境での学習や生活へ移行する小学校から中学校への進学において、進学後の生徒指導上の諸問題につながる状況（いわゆる中1ギャップ）が、社会的な問題となっていることから、小・中学校間の接続を円滑に行う必要性が謳われています。

本市においても、小・中学校間の連携の重要性を認識し、平成23年2月に「鎌倉市における小・中一貫教育」基本方針を策定しました。その基本方針に基づき、現在の小中連携の取組を一層推進するため、「鎌倉市における小中一貫教育」に取り組んでまいります。

各校の教育課程は学習指導要領を基準とし、各地域の児童生徒の発達や課題を踏まえ、学校教育活動全体を視野に入れた教育課程を編成することが重要です。小中連携の推進には、義務教育9年間を見通した教育課程の編成の視点が大切になります。

例えば、地域において育てたい子ども像を各中学校ブロックで議論し、それを実現するための教育課程を小・中学校が協働して編成することが、効果的な小中連携の取組となります。

また、小中連携の取組を深めるためには、小・中学校の教職員が互いの学校の教育課程を理解することが重要です。

例えば、小・中学校教職員の合同研修会や合同授業研究会における意見交換を通じ、学力観、授業観を共有し合うことで、小・中学校の教育課程の一貫性や系統性を確保することにつながります。

本指針は、そのような取組を各小・中学校が行う際の参考資料として作成しました。「鎌倉市における小中一貫教育」の基本的な考え方(基本方針から)をはじめとして、推進校での取組、推進のためのポイントと取組例、指導計画参考例等、組織づくりや連携を深める行事など具体的な事例を記載しました。

各中学校ブロックにおいて、共通の目標である「目指す子ども像」を定め、さらに小中連携を推進するにあたり参考にしていただくとともに、小・中学校の滑らかな接続に向けた取組の充実に役立てていただきたいと思います。

### 目 次

<b>1 「鎌倉市における小中一貫教育」の基本的な考え方</b>	<b>p. 2</b>
<b>2 小中一貫教育推進校の取組</b>	<b>p. 5</b>
<b>3 小中連携(接続)推進のためのポイントと取組例</b>	<b>p. 9</b>
<b>4 小中連携(接続)を意識した指導計画参考例</b>	<b>p. 15</b>

# 1 「鎌倉市における小中一貫教育」の基本的な考え方

「鎌倉市における小中一貫教育」が目指すものは、現在各中学校ブロックで行われている小中連携の取組の延長線上にあり、その取組をさらに充実させようとする連携型小中一貫教育です。

子どもが期待をふくらませ中学校に入学できるようにするためには、各小・中学校が、それぞれの中学校ブロックにおける教育的ニーズや実情を踏まえ、互いを理解し連携を図り、滑らかな接続を進めることが大切です。

そのため、次の三つを基本的な柱として、各学校が小学校入学から中学校卒業までの9年間を見通した教育課程を編成・実施し、子どもの「育ちと学びの連続性」を保障することを目指します。

## 基本的な柱

「目指す子ども像（共通の目標）」の設定

「鎌倉市教育課程編成の指針」による9年間を見通した教育課程の編成・実施

小・中学校での協働実践の充実

## 目 標

**義務教育9年間における子どもの「育ちと学びの連続性」を保障する**

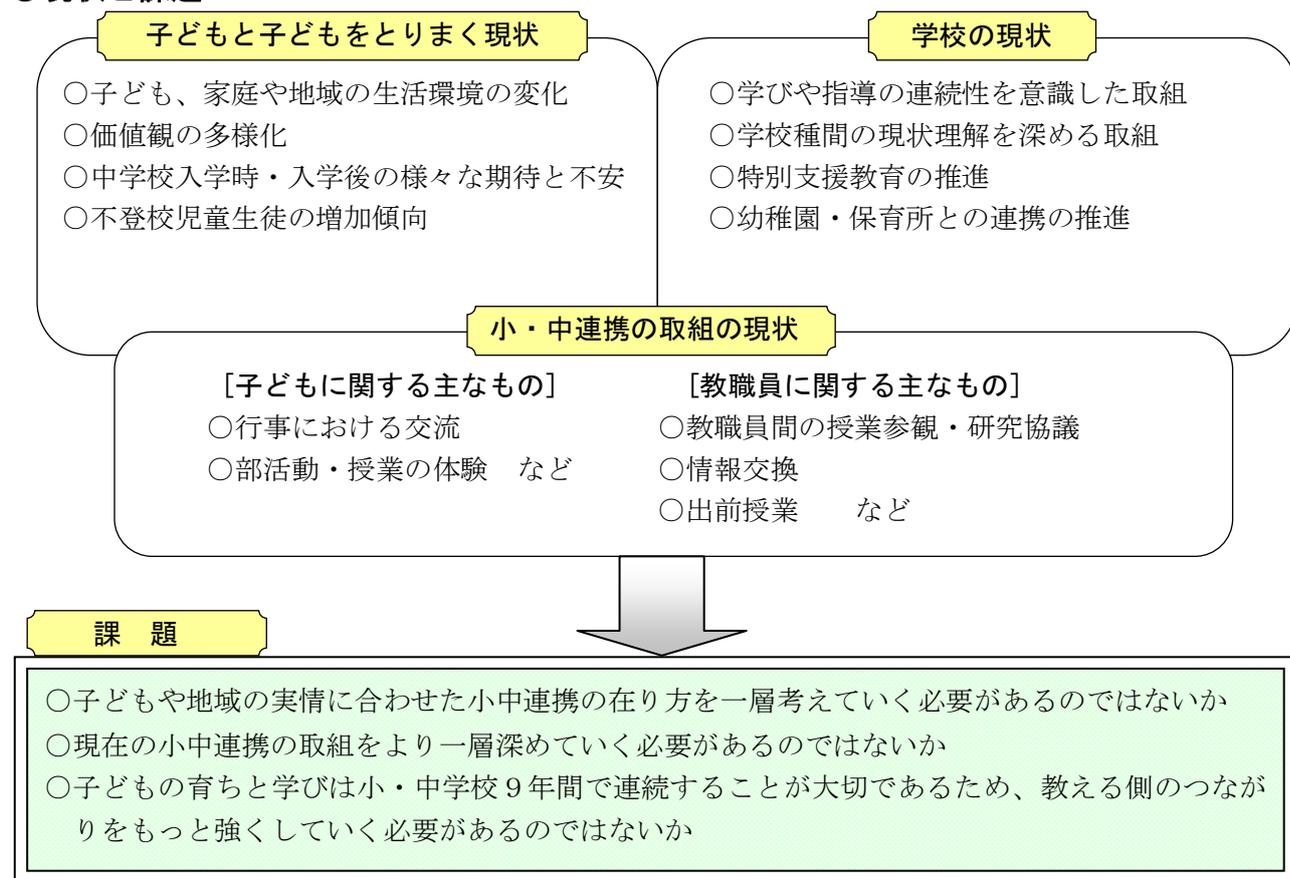
## 「鎌倉市における小中一貫教育」推進の取組

- 小・中学校の接続を円滑にし、期待感をもって入学できるようにする
- 相互の教職員が協力・連携を深め、小・中学校で目指す子ども像を設定し、共通認識のもと指導を行う
- 9年間を見通した系統的な学習計画で学習内容の確実な定着を図る
- 小・中学校の教職員が相互の教育活動の理解を深めることにより、子どもの発達の段階や個に応じた指導や支援の改善を図る

## 「かまくら教育プラン」で目指していること

- 子どもたちが教職員や友人との信頼関係を築き、楽しく活気ある学校生活を送れるようにする
- 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、「分かる授業」をよりいっそう徹底する
- 学習に対する子どもたちの興味・関心・意欲を引き出し、自ら学ぶ気持ちを育む
- 子どもたちの豊かな成長のために、家庭、幼稚園・保育所、学校などが連携し協調して、連続性のある取組を進める

## ◎現状と課題



## ◎取組の内容

### ○目指す子ども像（共通の目標）の設定

各中学校ブロックの小・中学校で、まず教職員が児童生徒の発達や学習の状況、学校の基本的な考え方、保護者・地域の教育的ニーズ等の情報共有と共通理解を図り、どのような子どもを育てていくかという点について共通認識をもつための話し合いや行事などの実施を推進します。

### ○「鎌倉市教育課程編成の指針」による9年間を見通した教育課程の編成・実施

子どもの「育ちと学びの連続性」を保障するため、「鎌倉市教育課程編成の指針」を作成し、それをもとに各小・中学校が各中学校ブロックの実情を踏まえ、各教科等における9年間を見通した教育課程を編成し実施します。

### ○小・中学校での協働実践の充実

各学校は、現在実践している小中連携の取組を充実させるとともに、子どもの発達の段階に配慮し、各中学校ブロックの教育的ニーズや実情を踏まえ、「育ちと学びの連続性」を一層意識した取組を推進します。その際、特別支援教育の推進や幼稚園・保育所との連携、関係機関等との連携を十分に図ります。

## ◎「鎌倉市における小中一貫教育」で期待されること

### (1) 個に応じた指導の連続性

授業参観や研究協議を通して、学習内容や指導方法などについて、小・中学校による共通点や相違点などの現状理解を深めることができます。その上で、学習意欲や学力の向上、学習習慣の確立などの課題に対して9年間を見通した指導を行うことにより、個に応じた指導の連続性をもつことができます。

### (2) 連続したきめ細かな生活指導

情報交換を通して相互理解を深めることにより、子どもの発達の段階に応じ、小・中学校間で連続したきめ細かな生活指導を行うことが可能となります。

また、不登校等への共通認識を持った対応へとつなげます。

### (3) 入学時の滑らかな接続

中学校入学時の子どもの期待をふくらませ、不安を和らげることができ、入学後の自己肯定感の育成や規範意識の醸成へとつながります。

### (4) 豊かな社会性と人間性のさらなる育成

小・中学校における授業や行事での交流などを通して、異学年の児童生徒、小・中学校の教職員や保護者、地域社会、関係機関が相互の関わりを深めることができ、児童生徒の豊かな社会性と人間性を育むことができると考えます。

(平成23年2月策定 基本方針から)



中学生の指導による6年生陸上記録大会に向けての練習



## 2 小中一貫教育推進校の取組（平成 25・26 年度）

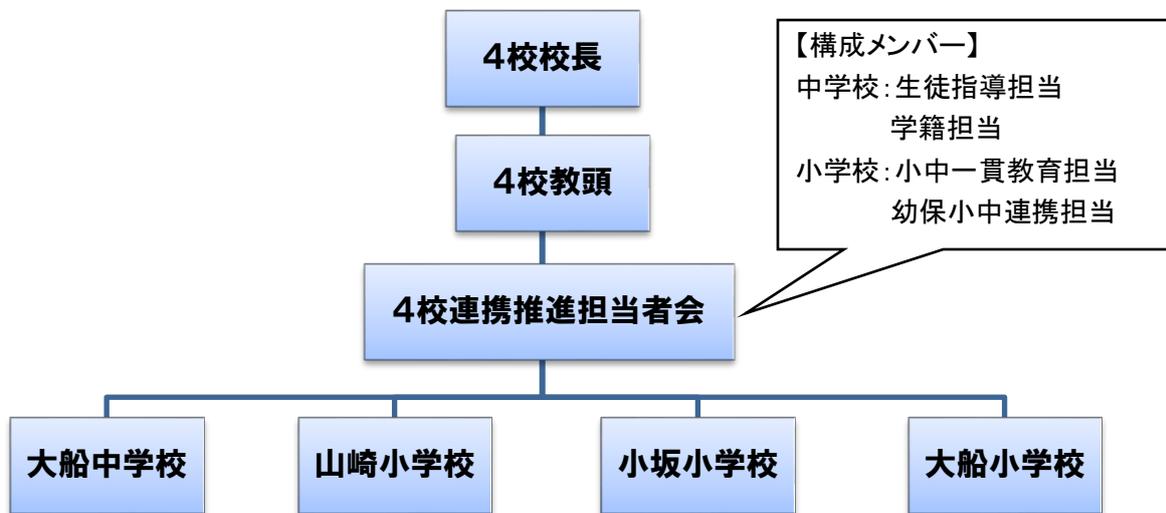
### (1) 推進校

**大船中学校フロック** (大船中学校、山崎小学校、小坂小学校、大船小学校)

### (2) 目指す子ども像

- 地域の中で、明るく元気に活動する児童生徒
- 自ら考えて、意欲的に学ぶ児童生徒
- 思いやりがある心豊かな児童生徒

### (3) 小中連携を深めるための組織



### (4) 小中連携を深めるための中心となる事業

- ・大船中学校オープンスクール時の、小学校教職員・保護者の授業参観
- ・大船中学校での、6年生を対象にした授業体験と部活動体験
- ・小中相互の授業参観と、教職員による協議と懇談
- ・新入生受け入れのための出前授業と情報交換
- ・小学校陸上記録大会練習に、大船中学校陸上競技部生徒の参加 等

### (5) 取組内容

#### ア 1年目の取組（平成 25 年度）

##### ◆主な取組

- ・1年目は、目指す子ども像、小中連携を深めるための組織づくりを中心に行った。
- ・4校連携推進担当者会を各学期に開催し、主な連携事業を中心に、小中連携を今まで以上に深めるための運営方法等の協議を行った。
- ・大船中学校1学年の「学年だより」を3小学校の6年生に毎月配付し情報提供した。
- ・講師を招聘して講演会を開催し、小中連携を深めるための学習会を行った。

## ◆実践内容

月	実践内容
4	校内組織の確認 4校の校長・教頭で打合せ
5	大船中学校オープンスクール * 小学校教職員、児童、保護者による授業参観
6	4校連携推進担当者会（取組内容の検討、今後の予定の確認）
8	小・中教職員交流会
9	大中祭 * 案内を学区の小学校に配付 * 小学校児童・保護者の見学 * 体育部門内種目で児童の参加
10	4校連携推進担当者会（中学校体験・教職員研究会・講演会等取組内容の検討、今後の予定の確認） 「学校へ行こう週間」 * 小・中学校教職員授業参観、児童・保護者による中学校の授業参観 大船中学校での6年生の中学校体験 * 授業体験、オリエンテーション、部活動見学・体験 中学生（2年）による山崎小学校での職場体験
11	大船中学校授業研究会、山崎小学校授業研究会 * 小・中学校教職員参加
1	大船中学校新入生保護者説明会 * 授業参観と学校説明
2	小中一貫教育推進講演会 * テーマ「小中連携が生む小学校・中学校のメリット」 * 講師 早稲田大学教授 小林宏己 氏 山崎小学校と大船中学校の教職員交流会（場所：山崎小学校） * 給食参加 * 5校時：1～6年生の授業参観 * 6校時：大船中学校教員による5年生への出前授業 * 教職員同士による情報交換
3	3小学校6年生への大船中学校教員の出前授業及び引継ぎ 4校連携推進担当者会（今年度の反省と次年度に向けて）

## イ 2年目の取組 (平成26年度10月現在)

### ◆主な取組

- ・2年目は、小中連携を深めるための中心となる事業として、10月に行われる鎌倉市小学校陸上記録大会に向けてのブロック内の小学校の練習に、中学校の陸上競技部の生徒が参加し、小学生を指導する取組を行うことにした。
- ・2月に行っていた大船中学校と山崎小学校の交流会について、1年目の取組を膨らませ、ブロック内の連携を深めるため、岩瀬中学校も含めてブロック全体に拡げることとした。

### ◆実践内容 (予定含む)

月	実践内容
4	校内組織と前年度4校連携推進担当者会の申し送り事項の確認 4校の校長・教頭で打合せ
5	大船中学校オープンスクール *小学校教職員による授業参観等 4校連携推進担当者会(昨年度からの申し送り確認、小中連携を深めるための事業検討、今後の予定の確認)
8	小・中学校教職員交流会
9	大中祭 *案内を学区の小学校に配付 *小学校児童・保護者の見学 *体育部門内種目で児童の参加
10	4校連携推進担当者会(小中連携行事等の取組内容の確認、今後の予定の確認) 陸上記録大会練習に、中学校陸上競技部生徒の参加・指導 「学校へ行こう週間」 *小・中学校教職員授業参観、児童・保護者による中学校の授業参観 大船中学校での6年生の中学校体験 *授業体験、オリエンテーション、部活動見学・体験 中学生(2年)による小学校での職場体験
1	大船中学校新入生保護者説明会 *授業参観と学校説明
2	地域の小・中学校との教職員交流会(大船中・山崎小・小坂小・大船小・岩瀬中) *大船中学校での授業参観、教職員交流等 小中一貫教育推進講演会 *テーマ「小中一貫教育の具体的な実践例」 *講師 神奈川県総合教育センター職員
3	3小学校6年生への大船中学校教員の出前授業及び引継ぎ 4校連携推進担当者会(今年度の反省と次年度に向けて)

## (6) 2年間の取組を振り返って

### ◆成果と課題

#### 成果

- ・ これまでも継続的に行ってきた取組を、改めて小中連携という視点で見直し実践することによって、小学校から中学校へ連続性のある計画的な教育活動と、双方の教職員がそれぞれの教育内容を理解することが重要であるということを認識することができ、教職員の小中連携への意識が高まった。
- ・ ブロック内の小学校6年生の家庭に、中学校1学年の「学年だより」を毎月配付することで、入学前に中学校の情報を提供し、中学校生活の理解を深めることができた。
- ・ オープンスクール等の案内を、ブロック内の小学校6年生の家庭にも配付することで、例年よりも多くの参観者が来校し、中学校の実態を知ってもらうのに効果的であった。特に、中学校の実態が分からないことによって「不安」に感じている小学校の保護者にとっては、日常の実際の授業場面を見てもらうことで不安を和らげることができた。
- ・ 講師を招いてブロック内合同の講演会を開催することによって、小中一貫（連携）教育は難しいという教職員の意識を変えることができ、取組の推進を図ることができた。
- ・ 教職員の意識が高まったことで、お互いの学校の行事や公開授業・授業研究等に見学・参加する教職員が増えて、日常の学校や児童生徒の様子を知る機会が増えた。

#### 課題

- ・ 4校合同での取組等を行おうとする場合の、時間の確保と日程調整が課題である。各学校の年間行事予定が出来上がる前に、前年度中からの調整が必要となる。
- ・ 取組を発展させるために、各学校の校内組織の充実を図るとともに、ブロック内の組織の継続性と充実を図ることが必要である。
- ・ 小・中学校間の連携だけでなく、ブロック内小学校間の連携を考えることも大切である。

### ◆小中連携を進めるにあたって

#### ◎中学校の公開授業や行事等の開催の情報は積極的に周知を。

中学校に在校生がいない小学生の保護者には、中学校が思っている以上にこうした情報が入っていない。そのため小学校を通して、実際にお知らせ等を配付することが大切である。配付により、「行事に行っても良いのだろうか？」という心配もなくなる。

#### ◎継続性のある組織づくりと、無理のない取組を。

担当者が継続してできる組織づくりと、負担となる新たな取組を行うのではなく、これまでの取組を充実・発展させる方向で検討をすることが必要である。

#### ◎教職員同士が、お互いの学校の取組を知ろう。

各学校の教育内容を知るために、それぞれの学校で行っている行事、学校公開、授業研究等に、短時間でもよいのでできるだけ多くの教職員が出かけて、各学校の取組や児童生徒の日常の様子を知ることが大切である。

#### ◎連携に関わる取組は前年度中に調整を。

関係する学校が多いほど日程調整が難しくなる。各校で年間行事を計画する前年度末の段階で、主な取組の日程を調整することが大切である。

### 3 小中連携(接続)推進のためのポイントと取組例

小中連携を推進するためのポイントとして、組織づくり、教職員間の交流・相互理解、児童生徒間の交流、家庭・地域との交流の4つの視点から具体的な取組例をまとめました。

#### (1) 組織づくりに関する取組（教育課程）

##### ◆推進のポイント

小中連携（接続）を進めるためには、組織的・計画的に行うことが大切です。まずは、各小・中学校内で校務分掌に小中連携担当を位置付けることが考えられます。担当者は複数にするなど、学校全体で取り組んでいくことが大切です。そして、小中連携を推進するための組織を中学校ブロックに構築していきましょう。

##### ◆取組例

###### ア 校内組織の構築

小中連携推進担当の組織を設置する。

- ・小中連携推進委員会は、校長、教頭、児童・生徒指導担当、教育相談コーディネーター、養護教諭などにより構成する。
- ・中学校ブロック内組織の構成員も兼ね、情報共有の要となる。

###### イ 中学校ブロック内組織の構築

小中連携推進委員会を設置する。

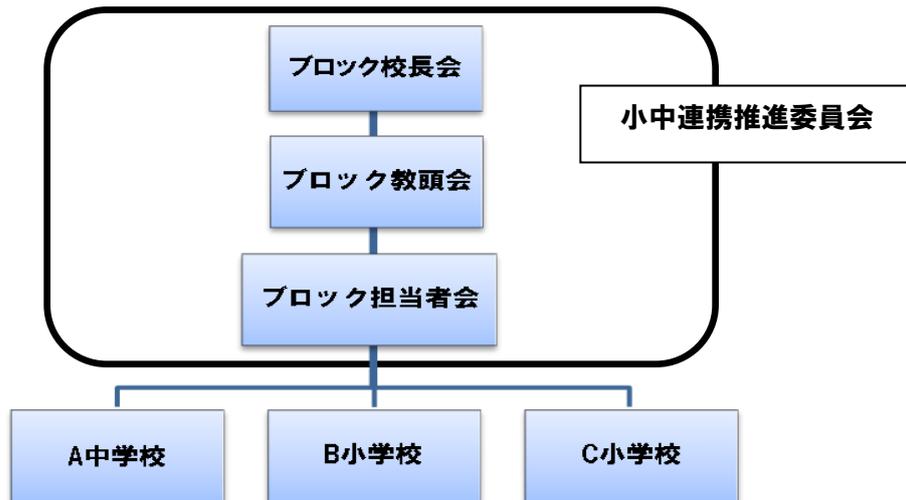
- ・各校の小中連携推進担当で構成する。
- ・中学校ブロック全体会や各部会の開催を計画する。
- ・目指す子ども像、全体計画等の原案を作成する。  
(年間行事予定の調整、連携関連事業の計画)
- ・計画の実施状況を把握する。
- ・各学校の抱える課題を共有し、情報交換を密に行う。  
(小学校での指導及び変化、中学校での様子)
- ・年度末に反省の集約をし、来年度に向けての課題の整理と日程調整を行う。



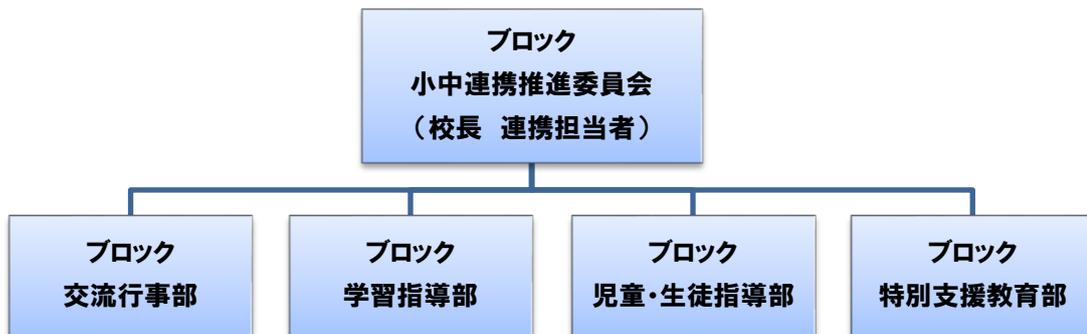
6年生の中学校での授業体験

<小中連携中学校ブロック組織イメージ図>

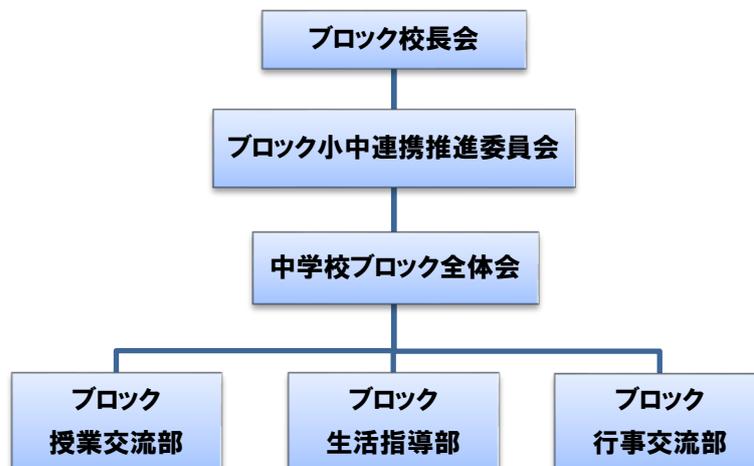
例A



例B



例C



## ウ 中学校ブロック全体会、各部会の開催

中学校ブロックの全教職員が集まり、小中連携における共通理解を深めたり、情報交換を行ったりする。

- ・全体会の内容は、目指す子ども像・全体計画・実施状況等の確認、合同授業研究会・合同研修会の開催、情報交換などが考えられる。
- ・中学校ブロックの実情に応じた部会を設置し、各学校の全教職員が、いずれかの部会に所属する。
- ・各部会の取組例

「児童・生徒指導部会」 各学校の抱える課題を共有し、9年間で行う児童・生徒指導の基本的な考え方の共通理解を図る。

「小中交流行事部会」 交流事業の計画や運営を行う。

## (2) 教職員間の交流・相互理解を深める取組

### ◆推進のポイント

小中連携（接続）を進めるためには、教職員間の相互理解が大切です。様々な機会を捉えて、小・中学校の9年間を通して育てたい力と各段階で身に付けさせたい力を明確にし、学習や生活についての状況を互いに把握しましょう。

### ◆取組例

#### ア 授業研究会、研修会等の実施

児童生徒の学習や生活について共通理解を図るため、合同研究会・研修会等を定期的に行う。

(例)

- ・ブロック内の各学校が、公開授業の参観・合同研究会を年に1回ずつ主催する。
- ・各学校の教育活動について共通理解を図るための研修会を行う。（教科指導、学習評価、部活動、児童・生徒指導の重点項目、基本的な学校生活の決まり等）  
【p. 16 指導計画参考例 参照】
- ・教材の共同開発をしたり、総合的な学習の時間、道徳の全体計画や年間指導計画等の共通理解を図ったりするための研究会を行う。  
【p. 17～ 指導計画参考例 参照】

#### イ 学校間の授業参観、行事の参観

随時、教職員がブロック内の学校を訪問し、授業や行事の参観を行う。

#### ウ 職員懇親会

各ブロック内の教職員が親睦を深め、様々な課題について意見交換を行う。

エ 夏季休業中の部活動指導の体験・見学

中学校の部活動への理解を図るため、小学校の教職員が部活動指導の体験・見学をする。

オ 中学校教員による小学校への出前授業

教科の専門性を生かせる中学校教員が、定期試験期間等を利用して小学校に出向き、出前授業を行う。

カ 小学校教員による中学校でのT・T授業

入学直後の不安感を軽減するとともに、学習支援にもつながるよう、小学校の教員が中学校へ出向き、1年生等の授業をT・Tで行う。

### (3) 児童生徒間の交流を深める取組

#### ◆推進のポイント

小中連携（接続）を進めるためには、子どもたちが交流活動等の意義を捉えていることが大切です。それらを行う場合は、何のために行っているのか（目標・目的）を理解させて取り組ませるようにしましょう。

#### ◆取組例

ア 小中合同地域清掃

地域との連携を図り、中学生をリーダーとして小中学生合同で地域清掃を行う。

イ 中学生の作品紹介

中学校での活動を伝えるために、中学生の作品や活動を記録したDVD等を、児童に紹介する。

ウ 文化祭等での相互展示

各校の文化祭やフェスティバルなどに、お互いの作品を展示するコーナーを設ける。

エ 総合的な学習の時間の発表見学

「総合的な学習の時間」の系統性をもたせ、相互に学ぶ機会となるように、お互いの発表を見学し合う。

オ 小中交流演奏会

中学校の合唱祭での優勝クラスや吹奏楽部の発表を小学校に出向いて行う。  
また、演奏交流を行い、小学生の指揮者体験や中学生による小学生へのアドバイス等を行う。

カ あいさつ運動

同時期にあいさつ運動週間を設定する。

キ 生徒会の小学校訪問、小学生の部活動見学・体験

生徒会本部役員が小学校を訪問し、中学校生活について話したり、小学生が部活動を見学・体験したりする。

ク 陸上記録大会に向けての陸上競技部員による技術指導

小学校6年生の陸上記録大会前に行う朝練習等に、中学校の陸上競技部の部員が出向き、見本を見せたり技術指導したりする。

ケ 児童生徒間の行事の交流や授業参観

学校へ行こう週間等の機会を利用して、お互いの行事に参加したり、授業を参観したりする。

コ 中学生の職場体験

中学生の職場体験の受け入れ先として小学校を含め、小学生の相談相手になったり、勉強を教えたりする。

サ 合同授業

小学生と中学生が合同で授業を行い、学習を深めたり協力して一つのものを作り上げたりする。

シ 小学校同学年の交流（横のつながり）

各小学校が合同で行事を行い、小学校間交流を深め、中学校へのスムーズな接続を目指す。

ス 特別支援学級の交流

ブロック内の特別支援学級が合同で学習や行事を行い、交流を深める。  
(例) 合同授業や活動、合同校外学習、合同行事

## (4) 家庭・地域との交流を深める取組

### ◆推進のポイント

各中学校ブロックの「目指す子ども像」や各学校での連携の取組などを保護者や地域に積極的に発信することが大切です。保護者や地域に対して授業や学校行事等を公開し、地域行事等への参加を相互に行い、家庭・地域と協力して子どもたちの成長を見守る環境整備をしましょう。

### ◆取組例

#### ア 小・中合同学校評議員会

中学校ブロックの学校評議員が合同会議を開き、子どもたちの学校や地域での様子、9年間の変化等について話し合う。

#### イ 学校だより、学校ホームページの充実

開かれた学校づくり、地域に根ざした教育活動を進めるとともに、地域や保護者の学校教育への理解をより得るために、各学校からの情報発信を行う。  
情報発信には、学校・学年・学級だよりや学校ホームページなどを積極的に活用する。

#### ウ 地域教育懇談会

地域の中で児童生徒を育む視点から、民生委員や青少年指導員、町内会・自治会・育成団体・PTA（保護者会）・幼稚園・警察等の代表、中学校ブロックの教職員が集まり、定期的に懇談会を開催する。  
懇談会では、地域の課題、学校への要望等を話し合うなど、地域の人たちの協力を得ながら、子どもたちの健全育成を図る。

#### エ PTA、保護者会等

- ・学校教育への保護者の理解と協力を得るため、積極的にPTA（保護者会）の行事に参加する。
- ・中学校ブロックのPTA（保護者）による合同懇談会を開催し、子どもたちや地域の情報を共有する。

#### オ 地域行事等への参加

地域の行事等に中学生が部活動単位で参加し、演奏やスポーツ体験、模擬店等を行う。地域行事に参加した小・中学生の交流を深める。

## 4 小中連携(接続)を意識した指導計画参考例

子どもの「育ちと学びの連続性」を保障するための具体的な取組として、「育ち」と「学び」の2つ視点から、指導計画参考例をまとめました。

### (1) 育ちの視点

中学校ブロックの「目指す子ども像」や「児童・生徒指導、児童・生徒理解」を中心に、小中連携や交流に関する内容をまとめました。各中学校ブロックの教職員が共通認識のもと9年間を見通した児童・生徒指導体制づくりの参考としてください。(→p.16)

- 学校教育目標
- 目指す子ども像
- 児童・生徒指導に関する活動内容
- 児童・生徒理解に関する活動内容
- 教職員間交流に関する活動内容
- 保護者・地域との連携内容

### (2) 学びの視点

今日的な教育課題や総合的な学習の時間(生活科との関連を含む)の取組例をまとめました。9年間を見通した計画作成の参考としてください。

- 「伝える力の育成を目指して」(→p.17)
- 「コミュニケーション能力を高めるために」(→p.18)
- 「キャリア教育」(→p.19)
- 「食育」(→p.20)
- 「鎌倉と世界」〈生活科・総合的な学習の時間〉(→p.21)
- 「福祉教育」〈生活科・総合的な学習の時間〉(→p.22)



6年生の部活動体験



中学生指導による6年生陸上記録大会に向けての練習

# 9年間を見通した児童・生徒指導体制

	A小学校	B小学校	C中学校
学校教育目標	<p>学校教育目標「ふかいおもいやりと、さわやかな笑顔で行動する子」</p> <p>&lt;目指す子ども像&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ私(知的好奇心・探究心を育てる)</li> <li>・心豊かな私(思いやりの心、美しい心、自然とふれあう心を養う)</li> <li>・進んでする私(想像する力、追求する力を育てる)</li> <li>・考える私(生命、生物、地球、環境を考える力を育てる)</li> <li>・がんばる私(努力、根気、忍耐力を養う)</li> </ul> <p>&lt;重点目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①基礎学力を大切にす。(基礎・基本の定着)</li> <li>②自らの学び、考え、判断して行動する力を大切にす。(生きる力)</li> <li>③心の育ちを大切にす。(心の健康)</li> <li>④健康で安全な生活を心がけ、たくましい体づくりを大切にす。(基礎的な体力)</li> <li>⑤他者とのちがいがい(よさや持ち味)を大切にす。</li> </ol>	<p>学校教育目標「豊かな人間性を持ち、たくましく生きる子の育成」</p> <p>&lt;目指す子ども像&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切にし、健康で安全にくらす子</li> <li>・相手の身になり、思いやりのある優しい子</li> <li>・みんなと協力して仕事のできる子</li> <li>・進んで学習に取り組み、よく考えて工夫する子</li> </ul> <p>&lt;目指す学校像&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりを大切にする学校</li> <li>・明るく、活気に満ちた学校</li> <li>・確かな学びと、豊かなふれあいのある学校</li> <li>・地域に開き、地域とともに歩む学校</li> </ul>	<p>学校教育目標「健康と知性 真理と平和」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康…豊かな人間性とたくましく生きるための健康と体力の育成(心と体の健康づくり)</li> <li>・知性…生きる力の知の側面を重視した確かな学力の育成(様々な学習を通して)</li> <li>・真理…自ら学び、自ら考える姿勢と真理を探究する姿勢の育成(道理の分かる人に)</li> <li>・平和…平和な社会を創造し、社会に貢献する態度の育成(安全で安心して生活できる学校)</li> </ul> <p>生徒指導の基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 思いやりのある人間関係を基盤として一人ひとりの生徒が主体的・創造的に生きる力を育てる。</li> <li>2. 望ましい集団生活を通して心身ともに健全で明るく楽しい学校生活を築かせる。</li> </ol>
目指す子ども像	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p><b>豊かな人間性を持ち、自ら学び、自ら考える、心身ともに健康な児童生徒</b></p> </div>		
	各小学校での活動	小中連携と交流	中学校での活動
児童・生徒指導に関する活動内容	<p>&lt;異年齢集団による活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会活動(児童集会・七夕集会・代表委員会) ・委員会活動 ・クラブ活動</li> <li>・運動会 ・校内音楽会</li> </ul> <p>&lt;保健・安全に関する活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食 ・清掃</li> </ul> <p>&lt;挨拶の指導&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会、帰りの会 ・授業の開始、終了 ・給食 ・地域の見守り隊の方との連携</li> </ul> <p>&lt;学年・クラスによる活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足 ・係活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校部活動体験</li> <li>・小学校陸上記録大会に向けた朝練習</li> <li>・中学校体育祭・文化祭での児童の参加</li> <li>・生徒会執行部による学校紹介</li> <li>・中学校合唱コンクール最優秀クラスの小学校での披露</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中合同避難訓練、校外清掃活動</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会生徒会執行部による合同あいさつ運動</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間や特別活動での交流</li> <li>・小学校での職場体験</li> </ul>	<p>&lt;異年齢集団による活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動</li> <li>・体育祭(4色対抗)</li> <li>・生徒会活動(各専門委員会)</li> </ul> <p>&lt;保健・安全に関する活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃 ・校外清掃</li> </ul> <p>&lt;挨拶の指導&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会、帰りの会 ・授業の開始、終了</li> </ul> <p>&lt;学年・クラスでの活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間(職場体験・栽培活動等)・小学校での職場体験</li> </ul>
児童・生徒理解に関する活動内容	<p>&lt;児童理解に関する活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他学年の授業を参観</li> <li>・スクールアシスタントによる支援</li> <li>・児童理解に関する校内研修会</li> <li>・教育相談コーディネーターを中心とした校内支援チーム</li> <li>・心のふれあい相談員による支援、相談</li> <li>・児童に関する情報交換、引継ぎ</li> <li>・教育相談(年3回)</li> </ul>	<p>中学校スクールカウンセラーとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校相互の授業参観・出前授業</li> <li>・次年度中学入学者の情報引継ぎ</li> <li>・中1生の状況についての情報交換</li> <li>・児童・生徒指導担当による日常的な情報交換</li> </ul>	<p>&lt;生徒理解に関する活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談(年間3回、期間を決め全生徒対象に行う)</li> <li>・職員会議での生徒の情報交換(月1回)</li> <li>・校内生徒指導会議・学年会での生徒の情報交換(週1回)</li> <li>・スクールカウンセラーとの情報交換</li> <li>・ケース会議(随時)</li> <li>・生徒理解に関する校内研修会</li> </ul>
教職員間交流に関する活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の開催</li> <li>・校内研究の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校相互の授業参観後の教職員懇談会</li> <li>・小・中教職員合同研修会</li> <li>・小・中教職員合同交流会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の開催</li> <li>・校内研究の実施</li> </ul>
保護者・地域との連携内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域訪問</li> <li>・保護者懇談会</li> <li>・学校へ行こう週間、学校公開日</li> <li>・地域懇談会</li> <li>・地域行事への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、PTAとの合同事業の開催</li> <li>・地域との交流事業への合同参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域訪問</li> <li>・保護者懇談会</li> <li>・学校へ行こう週間、学校公開日</li> <li>・地域懇談会</li> <li>・地域行事への参加</li> </ul>

# 伝える力の育成を目指して

	小 学 校			中 学 校
	低 学 年	中 学 年	高 学 年	
（身に付けたい力） 子どもの姿	「何が」「どうした」 「いつ」「何をして」「どうだったか」 が相手にわかるように話す。	メモに基づきながら、思ったり、考 えたりしたことを相手に伝えるよ うに話す。	話の組立に気をつけ、伝えたいこ と、話したいことをはっきりさせな がら効果的に話す。	話す速度や音量、言葉の調子や 間の取り方、相手にわかりやす い語句の選択、相手や場に応じ た言葉遣いなどについての知識 を生かして話す。
活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1分間スピーチ</li> <li>・振り返り(週末のこと・授業のことなど)</li> <li>・いいところカード(体育振り返り)</li> <li>・絵・紙芝居・作品のお話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1分間スピーチ</li> <li>・振り返り(週末のこと・授業のことなど)</li> <li>・いいところカード(体育振り返り)</li> <li>・算数の問題の考え方や解き方の説明</li> <li>・学習課題についてのペアや小グループでの話し合い</li> <li>・社会科や総合的な学習の時間で学習したことの発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチ(個人の目標、スクラップした新聞記事についての感想・意見、行事、教科学習)</li> <li>・創作活動(紙芝居、俳句、劇、新聞、絵本、歌など)の発表</li> <li>・いいところカード</li> <li>・絵・作品の説明</li> <li>・話し合い活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチ</li> <li>・問題の考え方や解き方の説明</li> <li>・総合的な学習の時間での発表の工夫(パワーポイントなどPCの活用、劇形式、クイズ形式など)</li> <li>・生徒会役員による小学生への説明</li> <li>・部活動単位での地域福祉施設における発表</li> </ul>
関 連 教 科 等	朝の会 各教科等及び教科間の横断的な学習	朝の会 各教科等及び教科間の横断的な学習	朝の会 各教科等及び教科間の横断的な学習 校内音楽会	各教科等及び教科間の横断的な学習 生徒会活動 部活動

# コミュニケーション能力を高めるために

	小 学 校			中 学 校
	低 学 年	中 学 年	高 学 年	
(身に付けたい力) 子どもの姿	自分の考えを話す。	相手の話を聞き、自分の考えを話す。	相手の考えを理解し、自分の思いを理解してもらえるように伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活発な意見交換から、課題発見・解決能力、思考力、表現力を形成する。</li> <li>・自己教育力の向上を図る。</li> </ul>
活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話のパターン(いつ・どこでだれが・どうした)を使い、出来事の順に話す。</li> <li>・書くことを発表につなげる。</li> <li>・賛成・反対の意思表示をする。</li> <li>・声の大きさや速さに気をつける。</li> <li>・静かにうなずきながら聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話すパターンに「どのように」など様子を詳しくする言葉を入れて話す。</li> <li>・賛成・反対の意見を理由を付けて話す。</li> <li>・相手の良いところを見つけ、伝え合う。</li> <li>・言葉の抑揚や強弱、間の取り方に気をつける。</li> <li>・静かに、共感しながら聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを整理して話す。</li> <li>・相手の考えにつなげて自分の考えを話す。</li> <li>・班・グループ・学級など集団の中で思いを伝え合う。</li> <li>・静かに共感して聞くマナー(目・耳・心)を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレインストーミング グループ内であるテーマについて様々なアイデアや意見を出し合う。</li> <li>・ディベート 肯定側と否定側の二つのチームが議論しその結果を審判が判定する。</li> </ul>
関 連 教 科 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想・作文の発表</li> <li>・スピーチ</li> <li>・お礼の手紙</li> <li>・学習発表</li> <li>・1・2年交流</li> <li>・他校交流</li> <li>・司会(日直)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想・作文の発表</li> <li>・調べ学習の発表</li> <li>・スピーチ</li> <li>・学級会</li> <li>・学習発表</li> <li>・1～4年交流のリーダー</li> <li>・司会(日直・学級会・お楽しみ会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想・作文の発表</li> <li>・スピーチ</li> <li>・学習発表</li> <li>・たてわり活動のリーダー</li> <li>・司会(学校行事・児童会活動委員会活動)</li> <li>・外国語活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科</li> <li>・道徳</li> <li>・特別活動</li> <li>・話し合い活動</li> <li>・学習発表</li> <li>・司会(学校行事・生徒会活動等)</li> </ul>

# キャリア教育

	小 学 校			中 学 校
	低 学 年	中 学 年	高 学 年	
(身に付けたい力) 子どもの姿	自分の好きなこと、得意なことやできることを増やし、様々な活動に意欲と自信を持って取り組む。	友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割を自覚し、解決方法や手段を選択して活動を進める。	苦手なことや初めて挑戦することに失敗を恐れずに活動や学習を進めることで、集団の中での自己の生き方を見出す。	体験活動や課題解決学習を通して学び方やものの考え方、進んで課題の解決に取り組む態度を身に付け、自己の生き方を考える。
活動内容	学級における仕事分担 ・係活動 学校探検 ・2年生が1年生に紹介 昔遊び ・地域の人たちとの交流 街探検	学級における仕事分担 ・係活動 お店調べ 工場見学 学習発表会	学級・学校における仕事分担 ・係活動、委員会活動、クラブ活動 テレビ局・新聞社見学 工場見学 学習発表会 中学校体験 ・体験授業／部活動体験	職場体験 ・職業調べ ・依頼文作成・事前訪問 ・道徳(勤労・社会への奉仕) ・職場体験活動(当日) ・まとめ(進路)と礼状作成 ・発表会 ・進路学習・進路選択
関連教科等	生活 音楽 図画工作 道徳 特別活動	各教科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動	各教科 道徳 外国語活動 総合的な学習の時間 特別活動	道徳 総合的な学習の時間 特別活動



# 鎌倉と世界

生活科  
総合的な学習の時間

	小 学 校			中 学 校
	低 学 年	中 学 年	高 学 年	
(身に付けたい力) 子どもの姿	学区の文化遺産等様々な場所を知り、親しみや愛着をもつ。	鎌倉の豊富な文化遺産や昔ながらの漁業や農業、工業などの地場産業について調べ、自分と地域とのつながりに気づき、地域と進んでかかわる。	鎌倉が歴史や文化に根付いた伝統的な都市であることを知り、同様な日本の他の都市についても調べ、地域の文化や地場産業を守り、発展させようとする。	他の地域と国の比較の中で現在居住している鎌倉の良さを理解し、現状の問題点、課題を改善する思考力を養う。
活動内容	ウォークラリーをしよう  学区を知ろう			
関連教科等	図画工作 特別活動	社会 理科 特別活動 副読本「わたしたちの神奈川県」 「かまくら」	社会 図画工作 総合的な学習の時間 特別活動	社会 英語 総合的な学習の時間 副読本「私たちの鎌倉」

# 福祉教育

生活科  
総合的な学習の時間

	小学校			中学校
	低学年	中学年	高学年	
<b>(身に付けたい力)</b> 子どもの姿	身近にいる幼児やお年寄りなどとのふれあい活動を通して、自分の成長やお年寄りの生活の様子に気づき、お互いに助け合う心や感謝する心をもつ。	地域にいるお年寄りや障害者などとのふれあい活動や疑似体験などを通して、お年寄りや障害のある方に接する時のマナーや技能について理解し、助け合う心や感謝する心をもつ。	地域にいる様々な人々とのふれあい活動・疑似体験や福祉に関する学習を通して、だれに対しても思いやりの心で接し、助け合い協力する心や感謝する心をもつ。	少子高齢化社会やノーマライゼーションの考え方について理解し、地域にいる様々な人々が幸せになる上での課題を見つけ、自分たちができる活動を主体的に行う。
<b>活動内容</b>	特別支援学校との交流  地域のお年寄りとの交流 ・昔遊び ・折り紙	・聴導犬 ・盲導犬 ・フロアバレー ・手話 ・車いす体験 ・アイマスク体験	特別支援学校との交流 介護施設の見学・交流 マナーや技能を学ぶ	・ブラインドウォーク ・職業体験(福祉施設) ・地域のバリアフリー検証
<b>関連教科等</b>	図画工作 道徳 特別活動	国語 社会 道徳 特別活動	社会 道徳 特別活動 委員会活動	道徳 特別活動 委員会活動 部活動

※ 総合的な学習の時間の個人または学年ファイルを作り、学習内容を年々蓄積していく方法もある。

鎌倉市教育課程編成の指針（小中連携）  
「鎌倉市における小中一貫教育」の推進について  
～小・中学校の滑らかな接続を目指して～

発行年月	平成26年11月19日
発行	鎌倉市教育委員会
編集	鎌倉市教育委員会 教育部 教育指導課
協力	鎌倉市小中一貫教育検討委員会 鎌倉市教育課程編成の指針作成委員会